

# 第9回 中国政治・メディア実証研究会

## 言説・世論・統計の政治

### —中国における可視化の操作—

本研究会は、中国における政治権力と情報の関係を、言説、世論、統計という三つの側面から統合的に検討することを目的とする。近年、中国研究ではプロパガンダやメディア言説の分析、オンライン・ナショナリズムの研究、統計データの信頼性や操作に関する研究がそれぞれ進展してきたが、これらはしばしば分断されてきた。本研究会で扱う三つの報告は、この分断を架橋する試みである。第一報告は、『人民日報』の香港報道を分析し、「一国二制度」という語が維持されつつも、その意味内容が自律性から国家安全重視へと再定義され、さらに記事削除を通じて過去の記録までも再構成されていることを示す。第二報告は、国家メディアとナショナリスト・インフルエンサーの語調の一致や乖離が、市民の政府への信頼にいかなる影響を与えるのかを実験的に検討する。第三報告は、企業データを用い、GDP 操作が数値改ざんではなく、統計に含める企業の選別によって実現されていることを明らかにする。三者は、国家が情報を単に歪めるのではなく、「何を現実として可視化するか」を選択・構成している点で共通している。この観点から本研究会は、中国における情報統治を「可視化の政治」として再定位する。

### 開催概要

日時：2026年7月18日(土) 14:00-17:40 (開場 13:30)

場所：岡山大学文法経1号館セミナー室 2-2

言語：日本語・英語

企画：中国政治・メディア実証研究会 (<https://ecs-jp.netlify.app/>)

### プログラム

14:00-14:10 研究会趣旨説明 工藤文 (金沢大学)

14:10-15:10 内藤寛子 (アジア経済研究所) 「『人民日報』香港報道の言説分析から」

15:10-15:25 コーヒーブレイク

15:25-16:25 龔誠斐 (早稲田大学) 「Nationalist Influencers and Public Trust in Authoritarian Propaganda」

16:25-16:40 コーヒーブレイク

16:40-17:40 王睿霆 (岡山大学) 「Who Gets Counted? Political Pressure and Reporting Thresholds in China's Industrial Data」

司会 周源 (岡山大学)

討論 御器谷裕樹 (慶應義塾大学)・于海春 (北海道大学)